

機友会ニュース

(題字は村山五周氏)

機友会と母校のさらなる発展に寄せて
立命館大学機友会会長 大庫 典雄
(昭和二十四年卒)

師走を迎え、機友会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、本会の諸活動に対し、何かとご支援を賜り誠に有り難うございます。

機友会は機械工学科およびロボティクス学科の卒業生・在学生ならびに機械システム系大学院の卒業生・在学生、さらに機械システム系教職員から構成されており、すでに七千名を超える巨大な組織に成長して参りました。ご存知のとおり本会では過年来、全国を十三ブロックに分割した全国規模の支部組織結成の大事業に取り組んで参りましたが、島田前会長を中心に、役員各位ならびに全国各地の会員各位の熱心な協力により、昨年三月二十四日に第十三番目の東北支部の設立総会が仙台で開催され、文字どおり、全国支部組



織がすべて確立されたわけであり、第一号の滋賀支部が設立されたのが平成四年九月六日でしたから、まさに十年にわたる一大プロジェクトであり、機友会の歴史を画する大事業であったと存じます。各支部設立のための諸準備や設立後の支部運営について、各支部の会員各位には大変なご尽力と多大のご支援を賜り、ここに重ねて厚くお礼を申し上げます。

次でございませう。

前報でも述べたとおり、全国支部組織の「生みの親」を島田前会長とすれば、私はさしずめ「育ての親」の役回りかと、その責任を痛感致しております。この観点から、機友会本部で種々審議の上、全国各支部に対する支援策を検討させて頂きました。本部財政も極めて厳しい状況にありますので、各支部に対して十分な支援策は困難な状況にあります。第一段階の具体的措置として、平成七年発行の機友会名簿売上げ収益の支部還元を行うとともに、支部総会開催補助金として総会開催ごとに二万円の補助金を交付させて頂くことになりました。また、機友会本部総会開催時には各支部に対して参加者の交通費実費一名分を支給させて頂くことに致しました。これにより北海道支部や九州支部などの遠隔支部からも本部総会へのご出席の条件が改善され、総会時に全支部から代表者のご出席を賜る条件が整うこととなります。此少な措置で恐縮ながら、各支部のご意見を広く頂戴しながら、機友会および母校のさらなる発展のために、会員の皆様とともにベストを尽くしたく存じます。今後とも本会に対して格別のご理解とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

また、母校では理工学部全学科・学系の同窓会組織が確立され、これらを横に繋いだ「理工学部同窓

会連絡協議会」が発足しております。

機友会前会長・島田泰男様がこの連絡協議会の初代会長を務められ、このほど建設会会長・浅賀博様に会長職をバトンタッチされました。機友会会員各位には、同連絡協議会につきましても格別のご支援を賜りますよう、併せてどうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位の益々のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

支部だより

北陸信越支部だより

支部長 塩澤 和章
(昭和四三年卒)

機友会北陸信越支部は平成四年の九月に設立総会を開催以来、満十年が経過し、本年十一月二十三日(土)に富山県水見市阿尾の浦温泉「永芳閣」にて第六回定時総会を開催しました。当支部は、福井・石川・富山・長野・新潟の五県で構成され、一年おきに総会を開催しているため、本総会で各県一巡して振出しに戻ったこととなります。総会には、立命館副総長・田中道七先生、機友会会長・大庫典雄様、機械工学科教授・酒井達雄先生のお三人をご来賓としてお



迎えし、総会議事を審議した後、記念講演として、田中精密工業株式会社の実業家・田中道七先生(昭和四一年卒)より「本田技研工業の開発システムについて」及び田中道七先生より「立命館大学の現状と将来」と題してご講演をいただきました。夕刻には、大変和やかで楽しく、かつ稔りの多い懇親会が開催され、時間の経つのも忘れて深夜まで懇親が続きました。翌日は早朝から、高岡市内観光(万葉博物館、二上山、国宝瑞龍寺等)を楽しむ特別企画を持ち、参加者全員が高岡市内から一望できる冠雪の立山を感嘆、満喫致しました。

当支部は、会員数約二百名の支部ですが、支部活動のモットーとして角野前支部長が唱えられてきました「人の和と輪」を大切にしながら、会員各位の協力を得て、支部活動を今後とも継続的にかつ活発に展開していく所存でございます。

なお、機友会北陸信越支部の設立及び平成四年から平成十二年の八年間の長きにわたり支部活動にご尽力されました角野前支部長が昨年平成十三年九月にご逝去されましたこと紙面をお借りして、ご報告申し上げますとともに、故人のご冥福をお祈りしたいと思います。前支部長の後の舵取りを任せられました私としては、前支部長の唱えられた「人の和と輪を重んじる」支部活動を積極的に展開することが故人のご恩に報いることであると思っております。今後とも機友会及び母校立命館大学のますますの発展をご祈念申し上げますとともに、引き続き北陸信越支部に対して会員各位のご支援とご鞭撻をお願いする次第でございます。

滋賀支部（びわこ機友会）だより
副支部長 尾本 守
(昭和三十三年卒)

滋賀支部第六回総会を去る九月二十一日、琵琶湖湖畔の大津市ホテルピアザ県民交流センターにて開催いたしました。来賓には前総長大南正

瑛先生、大庫典雄機友会会長、島田泰男機友会名誉会長をはじめ多数の教職員の方々をお迎えして盛大に行われました。

総会は第一部から藤谷支部長の挨拶に始まり事業報告、会計・監査の報告、役員・会則の一部変更などについて全て承認、可決されました。

第二部は来賓の大南先生から「レオナルド・ダ・ヴィンチの生き方から学ぶ」と題した講演を拝聴致しました。内容はルネッサンスを代表する偉大なる芸術家であり科学者であったレオナルドに惹かれた先生から、肖像画の解析をはじめニュートンの運動方程式を使って斜面を転がる球の力学的考察など分かりやすく、また、絵画趣味をお持ちの手法による明石海峡大橋のスケッチを強度的観点から考察されるなど、卓越した持論をご披露していただきました。またレオナルドの精神的な七つの原理の解析と考察についても先生の博学多才な側面に接し、深い感銘を受けることができました。

第三部は同ホテルクリスタルルームで懇親会とし、来賓教授を代表して岩清水先生のご挨拶に続き名誉会長島田様の乾杯首領により開宴、会員相互の親睦のため出席者全員の自己紹介や近況報告をおこない時間の経過を忘れさせる寛いだ雰囲気うちに閉会となりました。

「びわこ機友会ニュース」第五号は平成十三年十二月に発行いたしました。

した。本号は支部長挨拶、前回支部総会報告に続き、総合理工学研究機構客員研究員山元茂先生（本支部役員）に「びわこ・くさつキャンパスの近況」を寄稿いただきました。その中で最近、母校が顕著な成果をあげておられる先端技術について取りあげました。特に本学設置のSRセンター（シンクロトロン放射光装置、高輝度で指向性の高い数オングストロームの放射X線）と機械工学の関



係を機械工学科教授工博、田畑修先生の資料によって、材料の組成分析・構造解析やマイクロマシンによる三次元微細加工の可能性及びマイクロシステム技術研究センター構想などについてご紹介させて頂きました。

さらに、この放射光を利用した先端技術の開発を担当されている滋賀県工業技術総合センター工博、今道高志様（本支部役員）からLIGA (Lithographic, Galvanoforming, Abforming, 超精密加工) プロセスについて本学ロボティクス学科工博、杉山教授と共同研究されているX線リソグラフィ、電鍍、モールディング等の概要をそれぞれ写真入りの資料をいただき掲載いたしました。

末筆ながら、本支部は本学機械工学科教授工博、田中武司、酒井達雄両先生のほかに、前述の山元茂先生にも支部役員として運営に多大なご指導、ご教示を頂いておりますこと誠にありがとうございます。当紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

京都支部だより
支部長 中野 広
(昭和三十三年卒)

平成十四年十一月十六日、京都支部では、末川記念館において役員会を開催いたしました。この日の衣裳キャンパスは、二〇〇二立命館大学

フェスティバルが開催されていて若い人達で大いに賑わっていました。報道によると関西最大規模の大学祭であったとか。筆者が学生の頃は、木造の学舎で、しかも理工学部だけの時代でしたからまるで天と地の違いです。そして、のびのびとした若者達のありさまに感動さえおぼえました。これもひとえに立命館大学の発展のためものと思えました。

さて、役員会ですが、①平成十五年六月に第五回総会を開催する件、②支部会則の変更の件、③支部活動への会員の動員策、④会計活性化のための諸検討などでしたが、それぞれについて熱心な検討をいただきました。役員会のあとは申し合わせにより、いつも専門分野を問わず、何か一つの講話を聞くことになっていきます。今回は庶務幹事の坂根政男機工学科教授から「立命館大学のリエゾン活動」と題して話題提供をしていただきました。旧通産省の委託を受けたシンクタンク、アール・D・リトル社が報告した「産学協同から見た日米大学の評価」をもとにした今後の大学のあり方を問うものでした。それによるとMITを一位として立命館が七位（日本で一位）にランクされているということがわかりましたが、その評価のいきさつについての解説で理解が深まりました。その後、役員懇親会をおこないました。顧問の酒井達雄教授も出席いただいたので、主題を中心

に学生時代にかえったように大いに
論じました。

その他、機友会ニュース七号以来
おこなった支部の活動について報告
します。まず平成十三年十二月二十
二日京都タワーホテルで京都支部第
四回総会を開催しました。ここでは
支部会計に関し、今後の収入のみち
をひらく方途に関する質問がありま
した。原案どおり賛成をいただき
ました。そしてその後の講演会では、
同年九月に発生した米国での同時多
発テロに関連して「文明の衝突の世
紀(イスラエルとイスラムの場合)」
と題してヘブライ大学出身の大産
業大学人間環境学部手島勲助教
より講演をいただきました。西暦前
千数百年にさかのぼって、さまざま
な出来事を短時間で知ることができ
出席者の皆さんから時宜をえた演題



であったとして好評のうちを終了し
ました。

その他、この総会に前後して役員
会を二回開催していますが、紙面の
関係で割愛させていただきます。役
員の皆さんは、役員相互がまず親睦
を深めることが重要であるという認
識で一致していきまして、それをもと
に支部会員への働きかけをおこなっ
ていこうと申し合わせています。皆
様方のご理解をお願いいたします。
各地の機友会員の皆様には、公私
にわたり充実した日々をお送りのこ
ととお慶び申し上げます。

兵庫支部だより
支部長 岡村 司朗
(昭和三十三年卒)

平成六年三月に設立された兵庫支
部は、本年で八年目を迎えました。
兵庫支部では、二年に一回の通常総
会ならびに懇親会を開催するととも
に、その間に幾多の役員会を開いて、
役員間の親睦を図っています。また、
毎年行われる「立命館大学兵庫県校
友会をつどい」に本支部から役員を
中心に有志が参加して、会を盛り上
げています。なお、毎年秋に開催さ
れる機友会総会にも役員ならびに会
員が積極的に参加しています。
本年度は、第五回機友会兵庫支部
総会と懇親会が平成十四年六月二十
二日に明石市の舞子公園近くにある

「コースタル・リゾートヘルラ」
ホテルで開催されました。この付近
は、昔から舞子浜の美しい松林を擁
した風光明媚な所です。なお、最近
は、世界一の明石海峡大橋が最も美
しく眺められるスポットとしても有
名な所です。当日は、快晴に恵まれ、
会場からの眺めは素晴らしく、快適
な時間を過ごすことができました。

さて、総会ならびに懇親会には、
ご来賓として、機友会本部より、機
友会会長の大庫典雄氏、機械工学科
の酒井達雄教授、そして、会計監査
の小野健二氏がご出席されました。
大庫氏と酒井氏より、ご挨拶を賜り、
母校の発展のお話を拝聴し、出席者



一同心強く感じました。
なお、懇親会では、和気藹々のな
かで、先輩後輩分け隔てなく酒を酌
み交わし、会員相互の親睦を深め得
た有意義な一日でした。

同窓会だより

第十一回オアシス会だより
オアシス会 会長 小野 健二
(昭和三十年卒)

機友会の皆様お元気ですか。一九
八〇年にスタートした藤谷研究室同
窓会は、一九八四年には藤谷・酒井
研究室同窓会と名を改め、一九九〇
年、第五回の藤谷先生追悼会以後は
「オアシス会」として二年毎(機友会
総会のない年)に、学外に憩いの場
を求めて、今日に至って居ります。
特にBKCへ移転後は、地元滋賀県
内に「憩いの場」を求め、信楽の登
り窯見学、瀬田の網舟…と回を重ね
て参りましたが、今回は八彦根Vに
焦点を当て、本年十月十九日に、下
記の通り楽しい一日を過ごしました。
(第一部) 国宝「彦根城」およ
び国の名勝「玄宮園」の見学
JR彦根駅、正午集合。あいにく
の小雨の中、先ず観光を兼ねて、お
城の近くに新しく出来たノスタル
ジックな雰囲気のカヤツスルロー

ドで軽い昼食を済ませ、お城へ向か
う。中濠、内濠を渡って大手門より
坂道を上ること約十五分、平成八
年に大改修が完了して美しく蘇っ
た天守閣がそびえる山頂に出る。幸
いにもその頃には小雨もあがり、天
守閣の前でスナップ写真を撮り天
守の中へ。内部はがっしりとした木
造で、隠狭間など細かな配慮も見学
できる。三層目の天守閣からは下に
広がる樹の間から「玄宮園」の庭が、
北から西の方向へ、彦根港へ琵琶湖
がかすんでいる。

登りと反対方向に下ると「玄宮
園」がある。ここは井伊家の旧下屋
敷の庭園で、名の起りは唐の玄宗
皇帝の離宮にならったもので、その
造りは近江八景をとり入れたとい
うことから八景亭ともいわれる。池
泉遊式の優雅な庭園で、この春水
を総入れ替えされて一段と美しく
なった池の水面にはお茶室や少し
早い紅葉が映え、さらに池越しに彦
根城が眺められ一服の絵を見てい
るようであった。ただ後続のグルー
プは玄宮園の入口を見逃し、塀の外
を素通りされた様で、まことに残念
でした。ガイドの小生は只々陳謝。
庭園を出ると、桜田門外の事件(開
国の主張を推進し攘夷派に襲われ
た・一八六〇)で有名な「井伊直弼
大老の像」があり、その前を通過
マイクロボスの待つ表駐車場へ向
かう。マイクロボスで約五分、午後
三時頃、びわこ湖畔にある「かんぼ

びわこ湖畔にある「かんぼ

の宿・彦根」に到着。

〔第二部〕 講演会「超高サイクル疲労国際会議について」 酒井先生（I.F会議室）

酒井先生のこの研究については前々回の頃より、懇親会の席上でも話題になって居りましたが、最近では国際的な協力体制の下、益々佳境に入り破壊現象の核心に触れつつあります。このような情勢の中で昨二〇〇一年ウイーンで開催された「第二回超高サイクル疲労国際会議」閉会の際、次回議長として酒井先生がご指名を受けられ、二〇〇四年秋にBKCに於いて「第三回超高サイクル疲労国際会議」が開催される事となり、すでにその方向に向かって準備がスタートしている旨、ご説明がありました。わが立命館としては初めてのことであり、オアシス会としても出来る限りのご協力をしたいと考えて居ります。

さて先生のご講演の内容ですが、過日朝日新聞の取材に応じて「金属材料の超長寿命域における疲労特性について」非常にわかり易く説明されて居りますので、九月二十一日付けの「朝日新聞の記事」をそのまま掲載させて頂きます。下記の「掲載記事」をご参照下さい。講演会は約一時間半に亘り、学会発表資料および前記新聞記事などにより説明されましたが、特に電子顕微鏡による破断面の観察および破壊に至る挙動の研究は破壊の核心に触れる

ものであり非常に興味深く、一同最後まで熱心に拝聴しました。

〔第三部〕 懇親会

講演会終了後、隣に設定された宴会場に移動、寺石先生の乾杯の音頭により懇親会に入りました。会席料理「近江」の前に座ると半日の疲労試験？による疲れも一気に吹き飛んで、昭和三十年卒と現酒井研究室の学生という大きな年齢差にも拘らず、同じ研究室ならではの親しみと共通した話題により、終始和やかな雰囲気うちに、第十一回「オアシス会」を終了しました。



2002.10.19 第11回 オアシス会 於：彦根

金属疲労 最新研究

あらゆる機械構造物には「寿命」がある。これを決定するのは、材料の強度だ。試験技術や観察技術の発展とともに破壊メカニズムの解明が進み、強度研究は飛躍的に進歩してきた。今回は、金属材料の超長寿命域に関する研究で著名な立命館大学の長瀬健教授に現状と展望など聞いた。

「研究の動向」
「酒井」専門材料界「巨匠」酒井先生は、金属材料の疲労破壊に関する研究で、金属材料の超長寿命域に関する研究で著名な立命館大学の長瀬健教授に現状と展望など聞いた。

金属材料の「信頼性」を追求

21世紀は資源の節約と環境を重視した「エコデザイン」の時代
金属材料の「信頼性」を追求
金属材料の超長寿命域に関する研究で著名な立命館大学の長瀬健教授に現状と展望など聞いた。

平成14年9月21日 朝日新聞



計報

機友会本部 副会長
小谷進氏（昭和四二年卒）逝去



本部役員として平成三年以降十余年ご尽力頂きました小谷進氏（ユ一シン精機社長）が平成十四年十二月十四日未明、急性心不全のため逝去されました。同氏は昭和四十六年に一般産業用機械の製造販売会社として個人創業され、二年後に株式会社を設立。昭和五十三年にプラスチック成型品の取り出しロボットを開発後急速に業績を伸ばされ、同ロボ

RITS
立命館大学機友会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学 理工学部
機械システム系学系
Tel. 077-561-2664
Fax. 077-561-2665

ットのシェアを業界一位に伸ばすなど個人企業を世界に知られる企業に育て上げられました。
一方、藤谷・酒井研究室の先輩として後輩の育成にも種々ご配慮を頂き、多くのメンバーがユ一シン精機でご指導を受け第一線で活躍して居ります。またオアシス会の総会でも二回に亘りご講演頂いて居ります。特に、平成八年に滋賀県の信楽で開催したときには「京都中小企業技術大賞を受賞して」と題して開発の経過などをお話頂きましたが、非常に謙虚で穏やかなお人柄が感じられ、感銘を受けたことが昨日のように思い出され感慨無量であります。未だ還暦も迎えず、まだまだこれからと言う時期に急逝されました事は誠に残念であり、ご遺族の皆様のご心情を推察致します時、沈痛の念に堪えません。
ここに小谷進社長のご生前の活躍ならびにご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。